

1

問題のページへ

- (1)
- $A(-2, 0)$
- ,
- $B(2, 0)$
- とおき, 円
- C
- の

中心を P とすると,

$$PA + 1 = PB - 1, \quad PB - PA = 2$$

よって, P は 2 点 A, B を焦点とする
双曲線の $x < 0$ の枝である。

$$\text{その方程式を } \frac{x^2}{a^2} - \frac{y^2}{b^2} = 1 \quad (c^2 = a^2 + b^2)$$

とおくと,

$$2a = 2 \text{ かつ } c = 2 \text{ より, } a = 1, \quad b = \sqrt{3}$$

すなわち, P の軌跡は双曲線 $x^2 - \frac{y^2}{3} = 1 \quad (x < 0)$ ……

- (2) 求める円
- C
- の半径を
- r
- とし, 上の点を
- (s, t)
- とおくと,

$$s^2 - \frac{t^2}{3} = 1 \quad (s < 0) \dots\dots$$

また, $t < 2$ から条件より,

$$2 - t = \sqrt{(s+2)^2 + t^2} + 1, \quad 1 - t = \sqrt{(s+2)^2 + t^2}$$

$$t = 1 \text{ で, } (1-t)^2 = (s+2)^2 + t^2, \quad t = -\frac{1}{2}(s^2 + 4s + 3) \dots\dots$$

を に代入して,

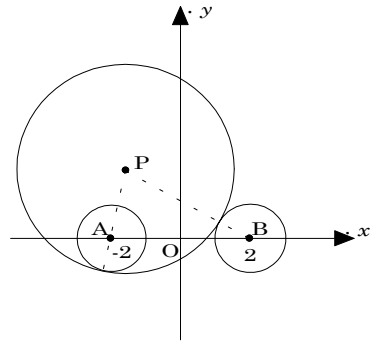
$$3s^2 - \frac{1}{4}(s^2 + 4s + 3)^2 = 3, \quad 12(s+1)(s-1) - (s+1)^2(s+3)^2 = 0$$

$$(s+1)\{12(s-1) - (s+1)(s+3)^2\} = 0, \quad (s+1)(s^3 + 7s^2 + 3s + 21) = 0$$

$$(s+1)\{s^2(s+7) + 3(s+7)\} = 0, \quad (s+1)(s+7)(s^2 + 3) = 0$$

$$s < 0 \text{ より, } s = -1, \quad s = -7$$

$$\text{より, } t = 0, \quad t = -12$$

このとき C の半径は, 2 または 14 となる。

[解 説]

(1)は双曲線の定義を用いると, 直接的に計算するより簡単です。(2)も同様に放物線の定義を用いてもよいのですが, 計算量はあまり変わりません。なお, s についての方程式を解くときに, 途中の計算を間雲に行うとたいへんなことになります。

2

問題のページへ

$$(1) \quad y = \sqrt{1 - (\log x)^2}, \quad y' = \frac{1}{2\sqrt{1 - (\log x)^2}} \cdot (-2 \log x) \cdot \frac{1}{x} = -\frac{\log x}{x\sqrt{1 - (\log x)^2}}$$

$x = t$ における接線は,

$$y = -\frac{\log t}{t\sqrt{1 - (\log t)^2}}(x - t) + \sqrt{1 - (\log t)^2}$$

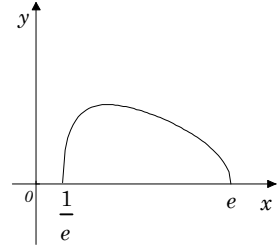
原点 $(0, 0)$ を通ることより,

$$0 = -\frac{\log t}{t\sqrt{1 - (\log t)^2}}(-t) + \sqrt{1 - (\log t)^2}$$

$$\text{まとめて, } (\log t)^2 - \log t - 1 = 0, \quad \log t = \frac{1 \pm \sqrt{5}}{2}$$

$$\text{ここで, } \frac{1}{e} < t < e \text{ から } -1 < \log t < 1 \text{ なので, } \log t = \frac{1 - \sqrt{5}}{2}$$

$$\text{よって, } t = e^{\frac{1 - \sqrt{5}}{2}}$$



$$(2) \quad \text{求める体積を } V \text{ とすると, } V = \int_{\frac{1}{e}}^e \pi \{1 - (\log x)^2\} dx$$

$$\text{ここで, } \int_{\frac{1}{e}}^e (\log x)^2 dx = \left[x (\log x)^2 \right]_{\frac{1}{e}}^e - \int_{\frac{1}{e}}^e x \cdot 2 \log x \cdot \frac{1}{x} dx$$

$$= e - \frac{1}{e} - 2 \left\{ \left[x \log x \right]_{\frac{1}{e}}^e - \int_{\frac{1}{e}}^e dx \right\}$$

$$= e - \frac{1}{e} - 2 \left(e + \frac{1}{e} - e + \frac{1}{e} \right)$$

$$= e - \frac{5}{e}$$

$$\text{よって, } V = \pi \left(e - \frac{1}{e} - e + \frac{5}{e} \right) = \frac{4}{e} \pi$$

[解 説]

基本題です。計算ミスだけが完答を阻む原因となる問題です。

3

問題のページへ

$n-k$ 個の空席のいすが横一列に並べてあるとすると、そのいすの間または両端は $n-k+1$ 箇所ある。

条件より、 $n \geq 2k-1$ なので $n-k+1 \geq k$ となり、この $n-k+1$ 箇所の中から k 箇所を選び (${}_{n-k+1}C_k$ 通り) その場所にいすにすわった k 人が割り込む ($k!$ 通り) と考えると、題意に適するすわり方となる。

よって、 $f(n, k) = {}_{n-k+1}C_k \times (k!)$

[解 説]

結論が与えられているので、その根拠の説明だけです。上で述べた考え方は、隣り合わないという条件のついた並べ方の数を求めるときの常套手段です。

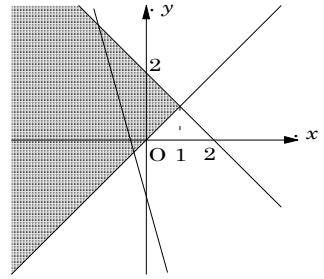
4

問題のページへ

$$\begin{cases} x - y < 0 \dots\dots\dots \\ x + y < 2 \dots\dots\dots \\ ax + by < 1 \dots\dots\dots \end{cases}$$

かつ の表す領域は右図の網点部。

に $(x, y) = (0, 0)$ を代入すると、つねに成立することより、 の表す領域は、直線 $ax + by = 1$ …… を境界とし、原点を含む側である。



ここで、直線 $x - y = 0$ と の交点は、

$$(a + b)x = 1, \quad x = \frac{1}{a + b} \quad (a \neq -b)$$

また、直線 $x + y = 2$ と の交点は、

$$ax + b(2 - x) = 1, \quad x = \frac{1 - 2b}{a - b} \quad (a \neq b)$$

以上より、 が三角形の内部を表す条件は、

$$\frac{1}{a + b} < 0 \dots\dots \quad \text{かつ} \quad \frac{1 - 2b}{a - b} < 1 \dots\dots$$

より、 $a + b < 0, \quad b < -a \dots\dots\dots$

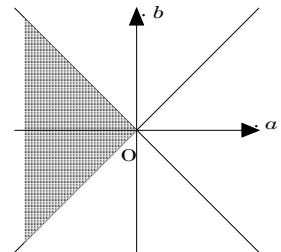
より、 $(1 - 2b)(a - b) < (a - b)^2,$

$$(a - b)(a - b - 1 + 2b) > 0, \quad (a - b)(a + b - 1) > 0$$

から $a + b - 1 < 0$ なので、 $a - b < 0, \quad b > a \dots\dots\dots$

より、 $a < b < -a$

点 (a, b) の集合を図示すると右図の網点部となる。



ただし、境界線は含まない。

[解 説]

の領域については、直線 を境界とし、原点を含むか否かで決定しました。また、直線 と直線 $y = x$ および $y = -x + 2$ との交点の範囲をもとにして三角形の形成条件を導きました。なお、本問は文系の第 2 問を一般化したものです。

5

問題のページへ

$$\frac{z}{2} + \frac{1}{z} \text{ が実数なので, } \frac{z}{2} + \frac{1}{z} = \frac{\bar{z}}{2} + \frac{1}{\bar{z}}$$

$$\frac{z - \bar{z}}{2} + \frac{\bar{z} - z}{z\bar{z}} = 0, \quad z\bar{z}(z - \bar{z}) + 2(\bar{z} - z) = 0$$

$$(z - \bar{z})(z\bar{z} - 2) = 0 \text{ より, } z = \bar{z}, \quad z\bar{z} = 2$$

(i) $z = \bar{z}$ のとき z は実数なので点 z は実軸上にある。

$$0 < \frac{z}{2} + \frac{1}{z} < 2 \text{ より, } 0 < \frac{z^2 + 2}{2z} < 2$$

まず, $z^2 + 2 > 0$ なので左側の不等式は, $z > 0$ すると, 右側の不等式は, $z^2 + 2 < 4z$, $z^2 - 4z + 2 < 0$

$$2 - \sqrt{2} < z < 2 + \sqrt{2}$$

(ii) $z\bar{z} = 2$ のとき $|z|^2 = 2$ なので点 z は原点中心で半径 $\sqrt{2}$ の円周上にある。 $z = \sqrt{2}(\cos\theta + i\sin\theta)$ ($-\pi < \theta < \pi$) とおくと,

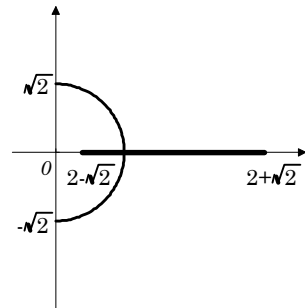
$$\begin{aligned} \frac{z}{2} + \frac{1}{z} &= \frac{\sqrt{2}}{2}(\cos\theta + i\sin\theta) + \frac{1}{\sqrt{2}(\cos\theta + i\sin\theta)} \\ &= \frac{\sqrt{2}}{2}(\cos\theta + i\sin\theta) + \frac{\sqrt{2}}{2}(\cos\theta - i\sin\theta) \\ &= \sqrt{2}\cos\theta \end{aligned}$$

$$0 < \frac{z}{2} + \frac{1}{z} < 2 \text{ より, } 0 < \sqrt{2}\cos\theta < 2$$

$$\text{よって, } -\frac{\pi}{2} < \theta < \frac{\pi}{2}$$

(i)(ii)をまとめて図示すると, 右図のようになる。

ただし, 端点は含む。



[解 説]

〔6〕との選択題です。複素数の頻出タイプの問題で, 本年, 神戸大・文系でも同じような出題がありました。なお, (ii)の場合に $\frac{z}{2} + \frac{1}{z}$ の値がこの複素数の実部と等しくなっていますが, これは $z = \frac{z}{z}$ を代入すると $\frac{z}{2} + \frac{1}{z} = \frac{z + \bar{z}}{2}$ となることからわかります。しかし, この変形はなかなか思いつくものではありません。

6

問題のページへ

- (1) 日曜日生まれが k 人, 土曜日生まれが m 人, その他の曜日生まれが $13 - k - m$ 人より,

$$\begin{aligned} P(X = k, Y = m) &= {}_{13}C_k {}_{13-k}C_m \left(\frac{1}{7}\right)^k \left(\frac{1}{7}\right)^m \left(\frac{5}{7}\right)^{13-k-m} \\ &= \frac{13!}{k!(13-k)!} \cdot \frac{(13-k)!}{m!(13-k-m)!} \cdot \frac{5^{13-k-m}}{7^{13}} \\ &= \frac{13!}{k!m!(13-k-m)!} \cdot \frac{5^{13-k-m}}{7^{13}} \end{aligned}$$

$$(2) P(X = k, Y = 2) = \frac{13!}{k!2!(13-k-2)!} \cdot \frac{5^{13-k-2}}{7^{13}} = \frac{13!}{2 \cdot 7^{13}} \cdot \frac{5^{11-k}}{k!(11-k)!}$$

$$P(X = k, Y = 2) = P_k \text{ とおくととき, } \frac{P_{k+1}}{P_k} = \frac{5^{10-k}}{k!(11-k)!} = \frac{(k+1)!(10-k)!}{5^{11-k}} = \frac{11-k}{5(k+1)}$$

$$P_{k+1} > P_k \Leftrightarrow \frac{P_{k+1}}{P_k} > 1 \Leftrightarrow \frac{11-k}{5(k+1)} > 1 \Leftrightarrow k < 1 \Leftrightarrow k = 0$$

$$P_{k+1} = P_k \Leftrightarrow \frac{P_{k+1}}{P_k} = 1 \Leftrightarrow \frac{11-k}{5(k+1)} = 1 \Leftrightarrow k = 1$$

$$P_{k+1} < P_k \Leftrightarrow \frac{P_{k+1}}{P_k} < 1 \Leftrightarrow \frac{11-k}{5(k+1)} < 1 \Leftrightarrow k > 1 \Leftrightarrow k = 2$$

以上より, $P_0 < P_1 = P_2 > P_3 > \dots > P_{11}$

よって, $k = 1$ または 2 のとき, $P(X = k, Y = 2)$ は最大となる。

[解 説]

5 との選択題です。内容的には数学 B の確率というよりは数学 A の確率の問題です。(2)まで含めて, 超頻出の問題です。